

☆☆図書委員会より☆☆

☆☆お知らせ☆☆ ☆第7号☆



2012年10月～11月（前期） 新規登録の書籍をご案内します

書名(購入書)	著者名	出版社	分類シール
フォトエッセイ 希望の大地 「祈り」と「知恵」をめぐる旅	桃井和馬 著	岩波書店	[黒 161.3 Mo]
岩波ブックレット841			
《放蕩息子》の精神史 イエスのたとえを読む	宮田光雄 著	新教出版社	[橙 193.63 Mi]
新教新書271			
クリスマスの風景 現代人のためのクリスマスマッセージ	かく 賀来周一 著	キリスト新聞社	[赤 192.8 Ka]
新版 サンタクロースの謎	賀来周一 著	キリスト新聞社	[黒 386 Ka]
ふしぎなキリスト教	橋爪大三郎 大澤真幸(まさち)著	講談社	[赤 190 Ha]
講談社現代新書 2100			

(裏面へつづく…)

おすすめ本のご紹介… 加藤真衣子牧師より

『キリスト教とユダヤ教』～キリスト教信仰のユダヤ的ルーツ～

F. クリュゼマン／U. タイスマン 編 大住雄一 訳

「むかしユダヤの人々は／神さまからのお約束

とうといかたのお生まれを／うれしく待っておりました」

教会学校で賛美される歌です。そう、クリスマスは神さまが旧約の時代から約束なさっていたことが実現した出来事なのです。

新約聖書の1ページを開くと、「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図」という言葉から始まり、続いてイエスさま誕生の出来事が記されます。

救い主の到来は、決定的に旧約を「旧い」契約、新約を「新しい」契約としました。けれども私たちは旧・新約聖書を持ち、それを「聖書」と呼んでいます。神さまの愛は旧約・新約を一貫しています。その連續性を知ることは、イエスさまの降誕と十字架の救いをさらに深い恵みとして受け止めさせるでしょう。

このたび紹介する書物はサブテーマとして「キリスト教信仰のユダヤ的ルーツ」とあるように、私たちの信仰とユダヤ人ないしユダヤ教との対話の書です。ユダヤ人ないしユダヤ教との関係において、私たちの信仰を問い合わせます。

ここに書かれていることが教会の現在の公式見解になっているわけではありませんが、議論を通してなお教会の信仰が深められるようにとの願いのもとに翻訳されました。

目次を読むだけでも、面白いと思います。たとえば・・・

「旧約聖書の神は復讐の神か」「イエスは待望のメシアであったか」

「教会はユダヤ人たちに伝道すべきか」「いつメシアは（再び）来るのか」

・・・など。

この機会にぜひ読んでみてください。

(…表からのつづき)

書名(ご寄贈書)

著者・訳者名 出版社など

分類シール

神に導かれる人生 創世記12～25章による説教

松本敏之 著 キリスト新聞社 [橙 193.2 Ma]

☆☆ 当教会伝道師としてご指導いただいた松本敏之先生の『神の美しい世界 創世記1～11章による説教』(分類シール(橙193.2Ma))に続く説教集です。

ガリラヤのイエシュー 日本語訳新約聖書四福音書

山浦玄嗣 著 イー・ピックス 出版 [橙 193.6 Ya]

釘宮辰生伝 祈りに生きた伝道の生涯

倉田俊丸 著 釘宮辰生 記念事業会 〔 青 198.7 Ku]

釘宮辰生 記念事業会 〔 青 198.7 Ku]

カール・バルト 教会教義学

カール・バルト 著 新教出版社 《禁帯出》

神の言葉	II/1 神の啓示(中)	[Ba 3]
	II/1 神の恵みの選び(上)	[Ba10]
神論	II/2 " (下)	吉永正義 訳 [Ba11]
	II/3 神の誠め	[Ba12]
	I/1 創造の業(上)	[Ba13]
	I/2 " (下)	[Ba14]
創造論	II/2 造られたもの(中)	菅円吉 [Ba16]
	II/3 " (下)	吉永正義 訳 [赤 191.9	Ba17]
	IV/3 創造者なる神の誠め iii	吉永正義 訳 [Ba22]
	IV/4 " iv	[Ba23]
	I/3 僕としての主イエス・キリスト(中)	[Ba26]
	II/1 主としての僕イエス・キリスト(上1)	[Ba28]
和解論	III/1 真の証人イエス・キリスト(上1)	井上良雄 訳 [Ba32]
	III/2 " (上2)	[Ba33]
	IV キリスト教的生(断片)	[Ba36]

☆☆ 『カール・バルト 教会教義学』は古書/貴重書の扱いで《禁帯出》です。教会内でご利用ください。

鑑賞して…

(新規購入書より 教会員の鑑賞文)

『サンタクロースの謎』

賀来周一 著

クリスマスの時期に世界中に展開する「サンタクロース」の‘現状’が大変詳しく綴られています。クリスマスには沢山の「象徴」が語られます。人が「象徴」物の先にある真の救いを信じて求めるために大切なことなのだと感じられます。その意味で「サンタクロース」も幅広く世間の人々をクリスマスに導いています。「象徴」物の一つに「星」があります。私には幼稚園時代ペーパージェントで立っているだけの「星」の役で星のお面作りまで隣の子に取られてしまった悲しい思い出がありますが、「星」は「キリストと無縁の者を結ぶ」「自分を委ねることのできる」「導きの星」で、この本では「他のどのような役よりも優」るそうです。優しい文章なのに盛りだくさんなのでクリスマスを最大の祭典として迎える私たちも知ってスッキリする内容で楽しく読めます。(Ri)

☆☆ 阿佐ヶ谷教会図書室の蔵書、購入・寄贈希望書のお勧め文や鑑賞文を募集しております。これは適宜本誌「☆図書委員会よりお知らせ☆」に掲載させていただきます。誌面の都合上、恐縮ですが選考させていただきます。